

## 髄液や血清中のH-FABPの検出意義

研究分担者：広島大学大学院生物圏科学研究科 堀内浩幸

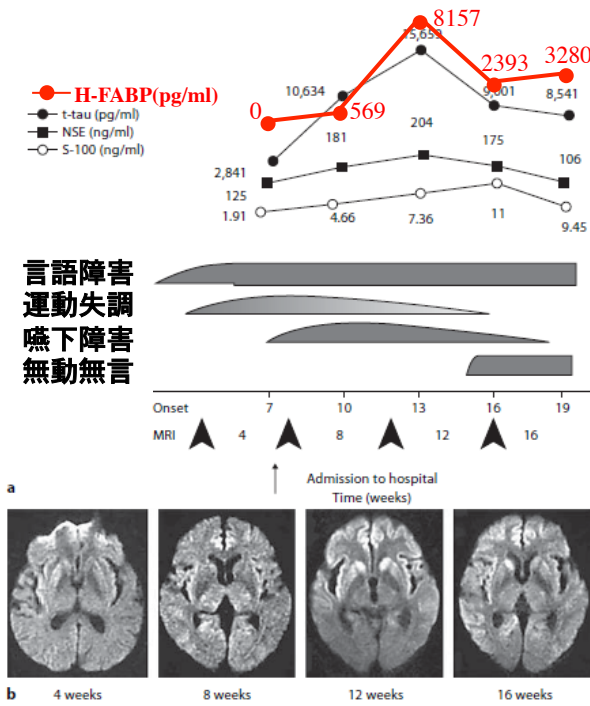


表1.各種脳疾患患者における血清H-FABP

	血清H-FABP(pg/ml)
レビー小体型認知症	6073
レビー小体型認知症	9215
パーキンソン病	4794
パーキンソン病	5959
晩発性小脳皮質萎縮	2368
アルツハイマー病	1685
アルツハイマー病	3476
アルツハイマー病	1554

図1.CJD患者の経過に伴う症状と髄液検査

### 解説

図1. 論文 ( Satoh K, et al: *Dement Geriatr Cogn Disord*,2007;23,372 ) 中の Fig.2に髄液H-FABP検出のデータ(赤表示)を加えた。CJD患者の各種症状の経過に伴って髄液t-tau変動が認められる。同一髄液試料を用いてH-FABPを調べたところ、H-FABPはt-tauと類似の変動を示したことから、CJDの髄液検査におけるt-tau やH-FABP の診断的意義が推察される。

表1. 少数例ではあるが、レビー小体型認知症患者において血清H-FABPが高値であった。他論文も参照して考えると、認知症と血清H-FABPには正の相関が想像され、今後多数検体での検証が必要と思われる。

本研究は佐藤克也・西田教行(長崎大学)との共同研究成果である。